



幼童
必讀

消息往來講釋全



明治五年壬申冬
増補大日本國盡入

幼童

必讀

消息往來講釋

浪華書肆 群玉堂梓



消息往來

消クス 息トス 往キ 來キタル

凡消消息者通音信也所遠

凡ハニ 消クス 息トス 者 通カド 音カニ 信マド 近キ所トモ 遠キ所トモ

國不限何事人間達

國クニ 不レ限ダ 何カ 事ニ 人ニシテ 間アモ 達スル 萬ニ用ニス

之基也先書狀紙

之ニシテ 基キ 也ヤ 先セニ 書日カタ 狀カテテ 手ニ 紙ニ 取ニ 扱キ

文字一筆管上仕致

文ヲシテ 字アヤ 一ヒトツ 筆ヲテ 啓ヒテ 上ニ 仕ニ 致シ 啓ヒテ 達ス



合啓以手紙申入尊書

翰貴書半札沙状芳雲

翰御紙面少寄紙研見相

痛披見披園致仕合候間

叔又時候正月若青陽餘

冬寒未寒氣難在二月

者仲春追日春暖氣相

催三月生長閑之節

四月去夏向暑之節

月若入梅不勝之天

身月暑者催 六月者林鐘暑

中土用入 長暑者 大暑

之節酷暑極暑難堪 七月者

過者 殘暑者 兼七月者

夷則中殘暑者 難去或敷

秋暑秋冷相催 八月者

暑稍涼 九月者 種種冷

氣朝夕相勝 十月者 雲英

寒冷以得 十一月者 陽復

向寒氣 節十二月者

大呂季中寒入時分物甚

寒入時分物甚

明者餘寒強別而余寒退

兼益御機嫌能遊御座

被鳥入上々様方貴公様

御手前様自分相考報

貴殿至許拙者各補御

勇健由安泰壯健安全由

安寧堅固勝無事息災

無御障無別奈御暮

恐 慌 欣 然 飲 然 作 悼 慮 外 大 幸

奉 賀 賀 恐 珍 重 目 出 度 御

儀 大 大 大 大 慶 過 分 之 至 稅

著 著 滿 是 所 時 令 事 和 泰 公

事 個 事 上 也 叔 大 小 名 濟 御

鎮 守 武 公 家 武 家 郡 代 奉

行 目 代 首 領 諸 役 人 至 迄

自 國 他 國 私 領 縣 主 駿 府

京 都 大 坂 奈 良 堺 伏 見 沱

皆 江 戶 表 在 在 番 公 營 沙

勤仕由勉一後重冬津仕

勤あひせ仕あひせ由あひせ勉あひせ一あひせ後あひせ重あひせ冬あひせ津あひせ仕あひせ

合所目見お漸御禮謝

合あひせ所あひせ目あひせ見あひせおあひせ漸あひせ御あひせ禮あひせ謝あひせ

音由容辨親度及至滞至

音あひせ由あひせ容あひせ辨あひせ親あひせ度あひせ及あひせ至あひせ滞あひせ至あひせ

都合能至尾克結構高命

都あひせ合あひせ能あひせ至あひせ尾あひせ克あひせ結あひせ構あひせ高あひせ命あひせ

御懸命由懇意首意送知

御あひせ懸あひせ命あひせ由あひせ懇あひせ意あひせ首あひせ意あひせ送あひせ知あひせ

後蒙依被仰付重加

後あひせ蒙あひせ依あひせ被あひせ仰あひせ付あひせ重あひせ加あひせ

極難有恐入臣辱今度今

極あひせ難あひせ有あひせ恐あひせ入あひせ臣あひせ辱あひせ今あひせ度あひせ今あひせ

般此度者先年先日先頃

般あひせ此あひせ度あひせ者あひせ先あひせ年あひせ先あひせ日あひせ先あひせ頃あひせ

者先達而日外當日者昨

者あひせ先あひせ達あひせ而あひせ日あひせ外あひせ當あひせ日あひせ者あひせ昨あひせ

夜今夕物先下年暮あ

夜あひせ今あひせ夕あひせ物あひせ先あひせ下あひせ年あひせ暮あひせああひせ

尚思往天

六

夜前

黃昏ヨリ明アツク後ノチ日ヒ所トコロ如ごと下した

御ミコト來キ駕カ光ヒコ臨ミ入イ來キ相アヒ鷹トウ

必カナラ也ナリ尋ミ殊ヘ更タ得エ程ハジ更タ將マシ

亦モ且カ以ヨリ備ツク又マタ依ヨ而シテ隨ツ白シ然シ

者モノ至キ之ノ旨ミコト別ワ而シテ以ヨリ後ノチ在リ

之ノ訣ケツ一ヒト趣ソツ得エ貴キ意イ度タク可カ

御ミコト也ナリ當アツカ地チ愛アイ許キヨ其コノ表ウラ手テ前マヘ

何ナニ資シ打ウチ拵ヒナ無ナシ息イ災シ罷ヒ有アリ

貴キ意イ易ヨク心シン安ヤス思オモ召メ御ミコト安ヤス堵ド

安ヤス慮リ可カ被レ下シ如ごと仰オホ去ク如ごと

來^ラ意^イ其^キ後^コ者^シ其^キ以^テ後^コ身^ミ來^キ

久^{キウ}々^々打^ウ絶^{ゼツ}良^{リヤウ}久^{キウ}暫^{シヤウ}互^ゴ取^ク紛^{フン}

何^カ角^{カク}兔^ウ角^{カク}取^ク無^ム捷^{セツ}難^{ナン}去^ク

不^フ得^{トク}止^シ事^ジ繁^{ハン}多^タ榮^{エイ}彼^ヒ是^シ

混^{コン}雜^ザ有^ユ之^シ樣^{ヤウ}子^シ御^ミ左^サ右^ウ例^{レイ}

度^ド不^フ兼^{ケン}能^{ネウ}過^カ約^{ヤク}束^{スウ}物^{モノ}儀^ギ也^ヤ

引^{イン}後^コ悔^{クワイ}失^{シツ}禮^{レイ}穩^{ウン}役^{ヤク}喜^キ平^{ヘイ}

御^ミ用^{ユウ}捨^{セツ}所^{ショ}仰^ウ自^ジ然^{ゼン}論^{ロン}

新^{シン}杯^{ハイ}決^{ケツ}而^ニ曾^{ソウ}而^ニ御^ミ念^{ネン}頃^{キン}毛^モ

頭^{カウ}鹿^カ略^{リョク}無^ム忽^{コク}之^シ段^{ダン}不^フ持^チ不^フ

消

河内縣 羽

東市懸情入魂別懸變

心底如在無餘意早遠儀

先刻者所刻如法者忽

對候直接授會釋案和法

姦毛振翫招債古債待日

侍方合少後々遊山花案

相催佛も在宿留守用心

草外遠る西谷泊自慰洗身

退居齋氣無儀新宅家

仍省生年日權良辰日物

消息性林

作有元造心日撰良辰日物

能く普請造り作ら出イテ来キ成テ就ツテ移ラレ

徒引極入院院移轉寺勢多

用益昌榮茂極く愛懐痛

姪娘續帯老人幼少成人

成り長多器少用モテ發ル明辨

家業止骨折稼開タ敷

中無漸急使物始末

略幼多等用至油新費大

隆方元無覺カ束ガ玉牙

代松一竹横徳積着面賣

買現金拂底不京氣多能
買バイ現ゲン金キン拂フ底ソコ不フ京キョウ氣キ多タ能ネ

貸借借文相紀手取貨物
貸カ借カ借カ文モン相アヒ紀キ手テ取トル貨カ物モノ

錢支留者名銀五枚
錢ゼン支シ留リウ者シャ名ナ銀ギン五イチ枚マシ

應再三返律儀正直遂
應オウ再サエ三サン返ヘン律リツ儀ギ正テイ直チツ遂スイ

吟味運速催便人緘年負
吟ギン味ミ運ウン速ソク催サヒ便ベン人ニン緘ケン年ネン負フ

皆濟相整田細文相
皆カ濟セイ相サマ整テイ田テン細サイ文モン相アヒ

總純原改渡海者能
總ソウ純ジュン原ゲン改カイ渡ワタ海カイ者シャ能ネ

風先岸着府發足後名
風カゼ先マツ岸キナ着ツク府フ發ハツ足ソク後ノチ名ナ

朝發駕之己第支度用
朝アサ發ハツ駕カ之ノ己ミ第ダイ支シ度タク用ヨウ

物上運送旅名中辭之己持
物モノ上ウエ運ウン送ソウ旅リョ名ナ中チュウ辭ジ之ノ己ミ持チ

海島解

陸山門海陸獨遠く沙艇

日雇人足結貨船不淨

借還借來金源及中處面

打續不圖計止宿不存

寄差支交通避避差障障

論論夥之敷闘笑諍ヲ喧

女奴平生急度觸嚴敷

相嗜分ツル別ア多ア了ラカ簡ヲ肝キモ要カク也ヤ

別格外存人外天氣能日

和衣快晴長困納涼あり

和衣快晴長困納涼あり

納涼あり

○ 流鳥御來

我儘故自得勝白昼今宵

晚刺者夜更深夜更未明也

收得或指全用や供又或

藝言問者學及白知文字

素續物續時心知如も

習者自然所負及及覺

備終の儀支く作法智一

心毎秘古修行可願支終

病身世作凡今家用親族

無他念就一一家法一門

有恩性來

十三

遠く霞を失くす
遠く霞を失くす
遠く霞を失くす

隔心少
隔心少
隔心少

疎遠偏中
疎遠偏中
疎遠偏中

毒笑止迷惑
毒笑止迷惑
毒笑止迷惑

形自少
形自少
形自少

静儻為札
静儻為札
静儻為札

使札中
使札中
使札中

口後解義
口後解義
口後解義

恒少
恒少
恒少

面得面上
面得面上
面得面上

肖息生天

十四

御 約 諾 以 兼 之 願 首 尾 如 何

傳 五 函 子 受 納 也 獻 上 進

覽 志 執 威 進 上 頂 戴 不 涉

一 毫 難 少 難 古 目 望 亦 輕

微 敬 意 貴 以 意 此 節 其 其 亦 如

御 太 儀 至 極 苦 勞 疲 勞

難 難 難 難 難 難 難 難 難 難

腹 所 勞 病 氣 太 切 持

病 心 痛 氣 積 風 邪 傷

寒 熱 性 來 加 醫 術 添 誠

治將茶と上清氣色を

快收中全收保養類生

日増強氣液系相應本後

加持新勝心系終誠泰上

同候推系慈心所と家

月若私想容養伴娘孫彦

爺玄孫兄弟姊妹伯父叔

母從弟胤替多同本姓苗裔腹

替男姑姑聲姪女推系推量

察入驚入驚入沙慈傷女と

消息生束

消息生来

清高をく 頤を 無幾程也

御 尊 近 頭 而 無 幾 程 是 也

身 支 之 物 丈 然 亦 経 馬 車

納 者 外 俾 緩 急 年 早 月

日 致 白 古 丸 之 方 寄 書 委 矣

細 具 悉 都 白 總 而 兼 知 也

懇 懇 叮 嚅 入 中 委 及 臣 聞

塵 却 白 全 頃 痛 入 手 透 無

不 得 寸 暇 取 之 強 而 無

信 亦 御 物 語 新 他 行 外 亦

出 亦 有 障 礙 念 無 詮

消息生来

方月伴日道也傍引新春

方分 同オト 伴共ト 道ニテ 御ニテ 誘サシ引ヒク 新改ニ本ル

年頭改曆古始所慶古曆

年 頭改 改曆 曆ヨリ 年 始 御ニテ 慶ニテ 吉ヨリ

冲吉兆中細中籍不可省

冲 吉 兆 中 細 中 籍 不可 省

盡期際限冲佳例也志例

盡 期 際 限 冲 佳 例 也 志 例

治吉例表菜上己之也祝

治 吉 例 表 菜 上 己 之 也 祝

儀端午嘉祥之御祝也

儀 端 午 嘉 祥 之 御 祝 也

中元日申亥八朔重陽治

中 元 日 申 亥 八 朔 重 陽 治

祝词云猪羊歳暮祝也

祝 词 云 猪 羊 歳 暮 祝 也

露心渡達序宜也沙治

露 心 渡 達 序 宜 也 沙 治

吹聴思召寄不浅被懸也

吹 聴 思 召 寄 不 浅 被 懸 也

消息往来

心 惠 投 送 賜 下 有 渡 蓮

捧 惠 札 法 指 進 献 奏 聞

御 入 涉 禁 裏 仙 洞 所

肉 裡 叙 旨 既 宣 中 受 涉 取

敷 委 別 委 休 期 承 日 何 十 二

敷 越 年 加 多 涉 報 歲 寸 志

飲 悦 印 追 慰 古 餞 別 古

贈 縮 古 因 色 馳 走 念 種 々

餐 負 担 敷 寄 好 物 珍 敷 賞

既 拜 味 幾 久 敷 取 与 造 不

消息生来

十九

相替あひか 萬まんに 車くるま 一ひと 端はた 不ふ 取と 敢あは 女を

院いん 姫ひめ 宮みや 女を 后ご 簾すだれ 中ちゆう 奥おく 方かた 内うち

儀ぎ 御ご 内うち 室むろ 北きた 面めん 雜ざ 掌しやう 沙さ 弥や

阿あ 爾に 梨り 信しん 正せい 方かた 丈ぢゆう 侍しやく 老らう 目め

宿しゆく 法はふ 印いん 法はふ 橋はし 權けん 信しん 却せつ 下げ

男おとこ 下げ 女を 婢ひめ 或ある 若わ 黨たう 徒た 士し 侍しやく

番ばん 頭かぶ 相あひ 取と 頭かぶ 其その 外ほか 丈ぢゆう 大だい 勢せい 呂り 仕し

奉ほう 公こう 有あ 信しん 相あひ 勤ちん 縁えん 組ぐみ 結むす 納な

御ご 婚こん 姻いん 取と 組ぐみ 祝いわ 言こと 御ご 整ととの

平へい 産う 安やす 産う 御ご 誕う 生な 出い 御ご

消息性来

諸君御來

九一

備大夫直園城至之

歴く至外雙銘く志先傍

門右惠の何去傍右所次

鳥竹之丞丞太丈何物何

進時秋上く有備士御太

刀一腰御馬一匹御樽

種一荷後着く時後春

時永陽後信如朝中展

期申入恐惶謹言不備

宣頌首敬白不具以上

宣頌首敬

九一

消息傳來

付者嘉人付者トヤ 恭セ人ジシ中御下御為下御貴貴

下玉下玉床下床下机下机下当用當用急用急用

要用要用為砂為砂沙返沙返奉奉重重言言少少

報少返報少返言甘言甘網社網社社人社人額額

懺勝懺勝中哀傷中哀傷沈哀沈哀懺勝懺勝

他界他界逝去逝去死去死去絶言絶言信誓信誓

入月入月雪雪花花見見臨臨時時之之文文其其

定式定式有有而而其其品品々々茂茂多多故故

先大先大概書概書他他化化しし牙牙

消息消息傳傳來來終終

消息傳來

七五

消息往來註釋

消息

和文の書面を消息文といふ
あつた紙の類名ふとるべし

音信

とひお

基啓上

又啓し上るしりて
又啓し上るしりて

啓上

啓し

芳書

芳書

芳書

古紙

古紙

古紙

お痛

お痛

披図

披図

青陽

條寒

條寒

仲春

仲春

長日

長日

弥生

弥生

夏反

夏反

入栢

入栢

鼻月

鼻月

林鐘

林鐘

碓氷

碓氷

夾則

夾則

南呂

南呂

南呂

南呂

季種 秋の 玉英 十月の 陽復 一陽来後

大雪 十月の 條々 冬明てのちの 所標燦

能 所あらはら 常健 いづれも 安泰 やすく

壯健 さうけん 安全 あんぜん 安寧 あんない

健固 けんこ 健勝 けんしょう

息災 災のこもる 息悦 おそれ入る 休然 しんぜん

息外 あつひのちのちの 大幸 おほいなる

忠實 あつしん 珍重 ちんじゆう

日出度 あけのちのちのちの

大祝大慶 おほいなるおほいなる

過分

これぐがむ浪 ちうちやく
あますぎごうり
とやあまご

収束

いひつくとよまをすふ
くこはしけはし

油芝

の事 十分不波
芝らとりゆ事

所時

さぶさぬと
ゆふおほじ

系

扣

ま
扣

参

公の御参
まのま

参伺

参上
伺ふちり

大小名

十石以上
花下の家

旗本

のんをとり
五石以下 表裏系

公家

禁裏仙洞
この家家の惣名

武家

將軍家
侍の家惣名

郡代

郡代官
郡行の代

奉行

執行
奉行のやく

見

目とまろやく
大小名自分の

首領

地のり
成てり領

自因

他

自分の領
あらがる他

私領

公

一列 数命の
この領

源

地の外
繁花の地

公

あやけの
つめむき

重

大

見

消息御事

十五

容辭

容いりしもの
辭いかりごと

無忌

むじ
たせむ忌しのみ

物て人を容せしとありよとて今も
縁のを強たうとつがはしとのわをも

坂倉純

坂倉ハズ
てあのせと

ひふてあて何もうも
そりふていあも

首尾

首いじめ尾ハ
とありはしと

猪梅

めとてこののふま入あ
らへらとあて能といあを浦

言命

言う人の方の
作てとあ

油

認命

ねんごらなる
あはれ

認を

ねんごらなる
あはれ

菖

意

意作

の位を認にいとく
西あふして神の

聖加

利生とありのがとく
あふううむると

輪

有

あやうの事い又
とああるまどと

今般

けなと云
ああまど

日外

りく日ともまめま
まじ一日とりの

南日

くみの日とにしてゆふ又ある
率あも其目をさす小用の

今夕

今日の夕
あたり

黄昏

日のくけりて人の面
こそやくしともつらごと

消息御来

廿七

こと **鷹** 鷹の糸のくのり **先陳** いかり

こと **相鷹** 相鷹の糸のくのり **將亦** 叔又と

こと **疎更** とらふ **依白** まふつので

こと **且以** 又あつ **可也** い

こと **乃云** なぐり **可也** い

得 え **得** え **可也** い

由地 ゆぢ **可也** い

自 みづか **可也** い

息 いき **可也** い

安 やす **可也** い

消息生来

如來らゐいの

如來らゐいののあまのあまのあま

安堵あんど

安堵あんどのあまのあまのあま

安んあんといいのあまのあまのあま

心こころのあまのあまのあま

心こころのあまのあまのあま

身みのあまのあまのあま

身みのあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

角つののあまのあまのあま

不ふのあまのあまのあま

不ふのあまのあまのあま

繁はんのあまのあまのあま

繁はんのあまのあまのあま

繁はんのあまのあまのあま

繁はんのあまのあまのあま

彼かのあまのあまのあま

彼かのあまのあまのあま

彼かのあまのあまのあま

彼かのあまのあまのあま

亦またのあまのあまのあま

亦またのあまのあまのあま

亦またのあまのあまのあま

亦またのあまのあまのあま

物もののあまのあまのあま

物もののあまのあまのあま

物もののあまのあまのあま

物もののあまのあまのあま

消息生来

廿九

一 消息生来

のく延のびくくまま

後悔こうかい

後あととときりてきり

又また體たい

體たいととうしうし

おんびり

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

おどちやうなるおどちやうなるととり

志し平へい

志し平へい

志し平へいふふののをを

消息生来

三十一

其あるたり 如きと身
あきく 律ふあきあり

二條念

外ふありあて更
おきしとりのて

早速

すぐさぬ
あとのふふ

所割

よふ
おぼし

対殊

いし
いし

様抄

二字ともむと
とりとわごとく

毒考

一はしりける
しよと人の

去釋

念してわごとく
と死わごとく

振舞

おと振舞あつたを人
を

招徠

客をまよ
くたり

情待

目くま
うける

遊山

招徠

客をまよ
くたり

情待

目くま
うける

遊山

おふのてあそぶと
海月のあそびあつた

甚楽

あそびの
しよ

由毛

つがもあふ
うらるとま

在名

おへおす
てあふある

苗身

苗身
あふ苗り

守る人の事
なごいし

至人苗
なごいし

身外

身を
あふ

多き草
時とりふ

道面

二ま
まるとしよ

活計

をり

一ノ目 退屈

退屈 ひきかへ 退屈 ひきかへ 退屈 ひきかへ

日權 ひけん 日權 ひけん 日權 ひけん

番信 ばんしん 番信 ばんしん 番信 ばんしん

移徒 うつりて 移徒 うつりて 移徒 うつりて

入院 にゅういん 入院 にゅういん 入院 にゅういん

盤石 ばんせき 盤石 ばんせき 盤石 ばんせき

懐胎 くわいたい 懐胎 くわいたい 懐胎 くわいたい

緘 けん 緘 けん 緘 けん

幼少 わうせう 幼少 わうせう 幼少 わうせう

成人成長 せいじんせいちょう 成人成長 せいじんせいちょう 成人成長 せいじんせいちょう

一ノ目 成人成長

廿二

何なにでも人ひとにおく
きだ明あきらたりく
力智ちからち
女まの人のちから
智ちのちから
意用いよう

意いのちから
のちから
利口りこう
今いまのちから
今いまのちから
今いまのちから

家業けいご
士農工商しにうこうの業
のちから
務む
のちから
厠うせき

お小このちから
世よのちから
世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから

以い
世よのちから
世よのちから
俵たわ
世よのちから
世よのちから

世よのちから
世よのちから
始末しまつ
世よのちから
世よのちから
知ち
世よのちから

世よのちから
世よのちから
助すけ
世よのちから
世よのちから
知ち
世よのちから

世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから

世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから

世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから
世よのちから
世よ
世よのちから

（一）天島社

廿二

ろろふとつとつり上へ **一併** りともよむなり

損徳 横いりのやがきそこなつと使ハさるひとむ

贅 たくてもふのその **者** おどり

福 あつまひをいふ **資質** あつまひをいふ

現金 現金 **構屋** あつてい

不系氣 糸の山月のク一だ

控文 證の志 **自取** おりの取

貨物 貨のすごこ

両替 そのとこ水と雨と **再應** 再のふ應へあ

身三 身の三 **律條** 律の法式條のり

（一）時

廿四

細凍

細凍 凍と細りつる

安也

安也 安く

白

白 白く

浮文

浮文 浮く

未明

放

放 放つ

放 放つ

戒

戒 戒む

将

将 将す

孝

孝 孝ふ

行

行 行ふ

依

依 依る

法

法 法を

古

古 古く

依

依 依る

失

失 失ふ

力

力 力

心

心 心

海

沾

沾 沾る

言

言 言ふ

言 言

味

味 味

背

背 背

毒

毒 毒

毒 毒

笑心わらこころ

今まを笑ひの心いまをわらひのこころ
止まりとおもひきことどまりとおもひきこ

迷惑めいわく

まよ

どわとよそどわとよそ

取直とれなお

あつらひあつらひ

辭體ことばのてい

まよ

あつらひあつらひ

使札つかしづ

使のののをつらつかのののをつら
と申とまをて飛脚ひやくとつりまあが

口邊くちべ

口邊くちべ

辭義ことばのぎ

口邊くちべ

口邊くちべ

音聲ねいせい

音聲ねいせい

音聲ねいせい

音聲ねいせい

面めん

面めん

面福面めんふくめん

面福面めんふくめん

義ぎ

義ぎ

落占らくせん

落占らくせん

更紙さらし

人ひと

献けん

献けん

執成しつじやう

執成しつじやう

頂戴ていだい

頂戴ていだい

不濟ふせき

不濟ふせき

不濟ふせき

輝てる

輝てる

世少 よせう

野椒 のゑ

葱 しん

之 これ

之 これ

若 わ

若 わ

雜 ざ

雜 ざ

雜 ざ

沙 しゃ

心 こころ

之 これ

之 これ

沙 しゃ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

心 こころ

傷 やぶ

傷 やぶ

醫 い

醫 い

醫 い

特 とく

金 かね

油 あぶら

保 たも

保 たも

糖 とう

糖 とう

之 これ

之 これ

本 ほん

本 ほん

加 か

一ツふつおきて **回道** どうどう **修司** しゅうし **勤** しん

春 あはれ **年頭** ねんとと **改曆** かいかり

所曆 しよらり **右兆** みぎしほ

書期 しよき **浮浪** うらな

春菜 はるな **上巳** かみみづひ

端午 たんご

七夕 たなばた

中元 ちゆうげん

重陽 ちゆうやう

玄猪 げんちゆ

九月九日中人 **玄猪** げんちゆ の亥の白猪を命せてつらふ

八朔 はつしやく 八月の朔日と田楽

重陽 ちゆうやう 九月九日中人

漢書

威春

十二月廿日

披露

ひらたありのすいとらと
人のことをなげやす

漢書

ひらうと

沙汰

沙汰といふ事をゆりそ
りふふしそのごとくお

次艘

風の吹てく人の舟へ
すし

忠投

めづと

お乳

自給の事を界してお
たるけいふがとりのこと

お所

奏聞

天子へてこと申すこと
奏すとも聞はせよる

お所

大後ひとの
お所

入所

日上入

禁裏

天子の御後所
の百敷九重

仙洞

帯下居とるよ
お所

月程

お所

敵直

天子のお前

院宣

仙洞の
作

紙身

加子

とらと一

報威

止と新の
す

志

あらばと

欣悦

よらとびと

骸骨

つら

消息

お所

ト見 字着るりうおれさるむけとら小 舞へり人を舞くうねとを
おる人が馬のさるを引むけし今お舞してさるむけと舞云
ち (そらう) きまどん ささうあう

馳走

あ人のさあおはしりめぐる
今い合知の舞とのふ

飲食

りて

物教家

めづしくおりちた舞
おむとめづすとのふ

黄教

りて

あそぶともむ人よりめむら
とやめらうむびてりあそぶ

舞味

人よりめむら
とぶめのとあぢりふ

てい たいさむむて
うぐさむいあそむ

万端

むんど

不知教

先ん何よりもさし
あそとの家あそ

女院

後のあり

姫名

人子

女子
とよ

女后

お軍家大臣

奥方

あぐさ

いん けい
さかここの

内儀

平人の妻

内室

平人の妻とら
さむいとのあこ世

いん けい
さかここの

北面

君上南面して座しんうかあれお討

仙洞清所の武士し

ざん けい
おあのみ

雑学

おあのみあり

沙弥

禅僧の
河内

架 てんごうしんごん 天右士の言など不行を
借 そろうどく 借正 そろうどく 借正 とくどく 借正

多文 つらみ 侍者 侍者 目家 の借

法印 大和 法橋 相由律師 権借 上人の借

婢 女力 若意 若意 番 番

後士 若意 借 借

親 番 親 親 借 借

網 ありをむすびて 婿 婿 婿 婿

婿 婿 婿 婿 婿 婿

肥 肥 婿 婿 婿 婿

割 割 婿 婿 婿 婿

右瑞

よびたその瑞が
あつりたる

大中納言

大中納言唐名相
あつりたる
仲納言唐名門

多儀

唐名
宰相

中将

唐名羽林
仲將

少将

羽林

侍從

天皇の
をむす

に

借大史

國

一國の

城

城の

永陽

是より末の永き
陽あつりたる

後

音

期

この期にまは
つりたる

頭首

しらとまげ

不真

のま

不真

あつりたる

音

下

さつりたる

下

よみたる

下

人の座と
玉の座とあめ

机

人の机の下へ
あつりたる

下

面

面発の用
あつりたる

要用

肝要の用
あつりたる

音

下

返平し
あつりたる

勝中

人死して七
年九日の忌

夏傷

あつねのころ
ふとやむる

夏

惜

はらわし
とらふ

崩河

天子の

池御

の死

逝玄

細言
の死

隙時

不時の

大概

あらまじ
元とらふ

消息往來註釋終

名頭字並

金	万	源
梅	福	平
松	長	友
竹	半	橋
鶴	右	孫
龜	根	彦

角 沐 久 午
良 德 秩 馬
女 控 浮 牛
法 虎 道 巴
澗 寅 滿 辰
菊 竟 新 底

冬 安 治 清
化 富 武 政
定 嘉 仁 基
貞 忠 傳 忠
門 家 文 林
紋 惠 云 岳

我元 併作 猪生
真德 今亦 又市
務常 恒若 石聿
孝白 百每 音乙

嘉藏 倉祐 勇索
丈世 恒要 陽疾
秋受 多勢 瀨律
臨深 嘆本 約美

後 友 勸 佐
華 新 年 玄
清 柳 筆 道
采 不 子 周
福 松 尚 松
友 友 真 初

連 冬 昌 百
健 大 不 助
安 代 十 在
春 永 八 亟
夏 榮 宅 去
秋 繁 八 邦

次 邦 大 吏 大 宰 守 氏
右 邊 門 王 儲 守 氏
正 督 尉 佐 殿 及 氏
夜 及 様 様 様 様 様 様 様 様

山 城 大 和 河 内
和 泉 物 津
東 海 道
拾 又 ヶ 國

伊賀 尾張 駿河 お控

伊勢 三河 甲斐 武藏

志摩 遠江 伊豆 出房

上総

下総

常陸

東山道

拾三國

近江 信濃

美濃 上野

飛騨 下野

陸奥 磐城 岩代 陸奥 陸奥 陸奥
陸奥 磐城 岩代 陸奥 陸奥 陸奥
陸奥 磐城 岩代 陸奥 陸奥 陸奥
陸奥 磐城 岩代 陸奥 陸奥 陸奥

水陸乃 七ヶ國

若狭 越前 加賀

能登 越中 越後

依渡

山陰道 八ヶ國

丹波 丹後 但馬

周情 伯耆 出雲

石見 隠波

山陽 道

播磨 他

備中 佐

八ヶ国

佐

安藝

周防 長門

南 河

六ヶ国

紀伊 淡路

河

讃岐 伊豫

出

渡嶋

渡志

石猪

北海道

十二ヶ所

二嶋
之波 対馬

日向	豊後	筑前	西
大濶	肥前	筑後	海
薩摩	肥后	志	道
			九ヶ所

天^て壇^{だん} 水^み見^み 儀^い振^{ぶり}
 日^ひ為^{なり} 十^と儀^ぎ 劍^{けん}路^ろ
 根^ね室^{むろ} 子^こ為^{なり} 棒^{ぼう} 太^{たい}
 大^{たい}日^{にち}本^{ほん}國^{こく}名^な為^{なり} 波^{なみ}

魚^{ぎよ}緘^{けん}封^{ふう} 一^{いち} 根^ねの^の事^{こと}
テカミ

何^{なに}也^{なり} 儀^ぎ 振^{ぶり} 付^つ 何^{なに} 儀^ぎ
未^み入^い 封^{ふう}

何^{なに}也^{なり} 儀^ぎ 振^{ぶり} 付^つ 何^{なに} 儀^ぎ
未^み入^い 封^{ふう}



一^{いち} 封^{ふう} の^の 事^{こと} 一^{いち} 封^{ふう} の^の 事^{こと}
未^み入^い 封^{ふう}

正月

春寒の節

春寒猶力

春寒未収

暄寒不常

ハルノサムサガ マタエラヒ

陰寒未止

寒氣未珍

近日暖和

春色日洽

ハルノサカサガ マタノコル

三月

時作春候

天氣差暖

ハルノサカサガ ノトカユナル

時作春候

和風扇暄

ハルノサカサガ アタカナ

四月

薄暑おぼれ

微薰催暑

チトハカリ アサカヒマコトキタ

向暑おぼれ

時作春候

梅霖未晴

ツユガ ハレヌ

暑氣おぼれ

梅月釀暑

アツサヲコシラヘル

五月

暑氣おぼれ

溽暑之節

ムスアツサ

大暑

煩暑酷熱

アツサガ ヒドヒ

六月

七月

残暑猶熾ざんしょ ちゆうしち

秋暑猶熾あきしよ ちゆうしち

秋涼あきすず

暑氣稍減しよき せうげん

時多に涼ときたに すず

寒威稍冽さむい せうれつ

秋暑猶熾あきしよ ちゆうしち

残炎未除ざんえん みていじゆ

秋涼あきすず

天氣差涼てんき させん

冷氣古暑れいき ころしよ

秋容婉晚あきよう べんわん

八月

九月

十月

十一月

十二月

寒冷さむい

寒候乍至さむい ちゆうし

寒氣さむい

雪意方動ゆきい ほうどう

寒氣さむい

隆冬苦寒りゆうとう くるかん

フエノサムサガ エラヒ

寒氣さむい

北風きたかぜ

寒氣さむい

陽復やうふく

大寒たいかん

節律せつりつ

ジセツ カンバイリ

フ	ナ	ル	イ	所
フ	ラ	ヲ	口	假
コ	ム	ワ	ハ	名
エ	ウ	カ	二	伊
テ	井	ヨ	ホ	呂
ア	ノ	夕	へ	岐
サ	オ	シ	ト	
キ	ク	ツ	チ	
ユ	ヤ	ツ	リ	
メ	マ	子	又	

年三

ミ
シ
エ
ヒ
モ
セ
ス
氏
メ
片

十干十支

甲
乙
丙
丁
戊
己
庚
辛
壬
癸

和音五十韻字

子
丑
寅
卯
辰
巳
午
未
申
酉
戌
亥

